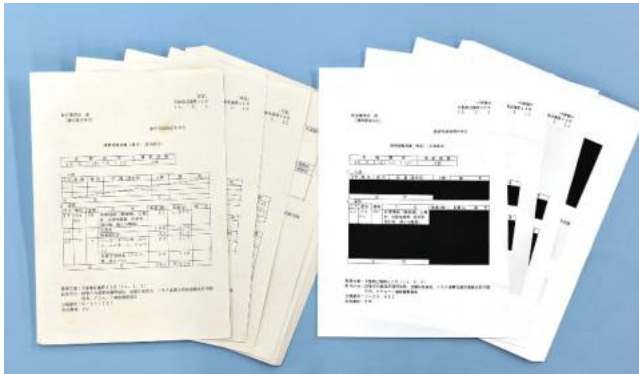


# 世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報 2009.10.15 No. 56 連絡先 042-555-1911



## 航空自衛隊イラク空輸 防衛省が はじめて実績を明らかにした！



10月7日付「しんぶん赤旗」に、「空自イラク空輸実績判明」の記事が掲載されました。同紙によると、防衛省はこのほど、赤旗記者が情報公開法に基づいて開示請求した航空自衛隊イラク派兵の「週間空輸実績」を全面公開しました。イラクでの活動を開始した04年3月3日から、最後の空輸となった昨年12月12日までの全記録が明らかになったのは初めてです。

上の写真は、開示された「週間空輸実績」(左)と黒塗りされた過去の開示文書です。

(この写真の著作権は「しんぶん赤旗」にあります。写真の複製は禁じられています。)



## イラク派兵 復興支援はウソだった！

左の写真は、横田友好祭で展示された空色に塗装された「イラク仕様」の空自C130輸送機です。赤旗紙の集計によると、空輸人数は総計約45,000人で、武装兵含む米軍関係者が約63%を占めます。自公政権が「イラク復興支援」の象徴として宣伝していた国連職員の空輸は全体の約6%でした。

## 航空総隊司令部の図面も 墨塗りではなく 全面開示すべき！



左の写真は、横田基地の撤去を求める座り込み行動時に展示された、航空自衛隊航空総隊司令部の墨塗りの建築図面です。

2009年1月29日、「横田基地の撤去を求める西多摩の会」は、会長を先頭に3人で北関東防衛局へ残土問題等で申し入れをするとともに、航空自衛隊航空総隊司令部の建築図面(配置図、各階平面図、立面図、断面図等)を情報公開法に基づいて開示請求しました。2ヶ月以上して開示されたのが、墨塗りされた20枚の図面でした。

2009年5月27日、略称「てっきよの会」は、全面非開示に対し、防衛省に情報開示不服審査請求を提出しました。が、開示はされませんでした。

2009年9月16日は、総選挙で大勝した民主党を中心とした鳩山新政権が誕生した日ですが、この日、略称「てっきよの会」は、航空自衛隊航空総隊司令部の建築図面が公開されないことについて、内閣府の情報公開・個人情報保護審査委員会に意見書提出を行っています。

空自のイラク派兵の「週間空輸実績」については、今年1月情報開示請求、5月に黒塗りの文書を開示、これに対し不服審査請求を行ったところ、9月24日付で全面開示されました。

## 「事実上の戦地派遣だった、イラク派遣自衛隊員の

『ストレスに関する調査』『ストレス状況調査結果』が秘密にされている。」

上記は略称「てつきよの会」総会の記念講演（吉田敏浩さん）のレジュメの「7.」です。レジュメはさらに続きます。「黒塗りにされたその調査結果報告書からは、派遣隊員のトラウマ体験の事実がうかがえる。戦地派遣は隊員に精神的重圧を与えていた。」と。

『自衛隊員が死んでいく』（三宅勝久著）でも「取材を通じてわかってきたのは、隊員たちが持つストレスの高さだ。ギャンブルや酒、女遊びに興じた末の借金苦、いじめ、鬱病……多くが孤独やストレス、精神的な飢餓感を抱いていた。」と、書かれています。当時の防衛庁は他省庁に先駆けて自殺対策に乗り出しましたが、『ストレスに関する調査』等は不開示です。

吉田さんのレジュメ続きです。「防衛省・自衛隊による不開示理由にはこう書かれている。

『隊員のストレス状況が明らかとなり、これにより、派遣部隊の精神的疲労による戦闘力の低減具合が推察され、自衛隊のイラク復興支援活動及び今後の国際貢献活動の妨害を企図する者に派遣部隊への工作の契機を与えることとなり、自衛隊の任務の効果的な遂行に支障が生じるおそれがあり』と。吉田さんは「自衛隊員を戦闘・戦争のできる兵士へと心身ともに変えようとしている。」と、指摘しています。

『ストレスに関する調査』等は全面開示して、日本を戦争しない国にすべきです。

## 「米軍のイラク、アフガニスタン帰還兵のなかには PTSD（心的外傷後ストレス傷害）に苦しむ人たちがいる。自殺者も増えている。」

アメリカの実態を、外交防衛課 鈴木滋氏の文献、『メンタル・ヘルスをめぐる米軍の現状と課題 — 戦闘ストレス障害』の問題を中心に — から抜粋します。

◎ 2009年5月11日、イラク駐留米陸軍の基地「キャンプ・リバティ」で、米兵による発砲事件が発生し、5人の同僚兵士が殺害された。（米政府にも大きな衝撃をあたえた。）イラクに派遣された米兵の中から、精神的な変調を訴える者が続出し、大きな社会問題となっている。

◎ 「戦闘及び作戦活動に伴うストレス反応」の例。（周囲に対して）過度の警戒心を抱く・恐怖や不安・怒りっぽくなる・パニックを引き起こす・記憶障害。これらのストレス反応が、時間の経過とともに、痛ましい体験が脳裏に蘇る「フラッシュバック」と呼ばれる症状や、不眠、悪夢、アルコールや薬物の乱用、抑うつといったストレス障害へ発展していく可能性示す。

◎ 2004年7月、米陸軍は、イラクやアフガニスタンから帰還した陸軍と海兵隊の兵士を対象として実施した、メンタル・ヘルスに関する調査結果を公表したが、帰国後の検査で、イラクに派遣されていた兵士のうち、6人に1人がPTSDの症状を示したという。また、ランド研究所が2008年にまとめた報告書『戦争の见えない傷』でも、これらの地域に派遣された米兵1,965人のうち、約14%がPTSD、約14%が深刻な抑うつ状態を示したと記されている。同研究所は、この割合を、両地域に派遣されていた米兵の全体数（164万人）に当てはめ、およそ30万人の帰還兵が、これらの精神疾患を発症している可能性がある、と分析している。

◎ 『ニューヨーク・タイムズ』の調査（2008年）によれば、イラクやアフガニスタンから帰還した米兵が、帰国後起こした殺人事件は121件にのぼるが、多くの場合、事件の背景には、アルコールの乱用や家族間の不和といった問題に加えて、海外派遣に伴うトラウマや、ストレスの影響があるのではないかと見られている。

◎ 米陸軍の自殺者数は、2003年のイラク戦争開始以降、急激に増大しており、2007年には115人を数えるに至った。これは、10万人あたりに直すと18.1人の割合であるが、2003年には10万人あたり12.4人であり、顕著な伸びといわねばならないだろう。ちなみに、2005年における一般国民の自殺率は、10万人あたりおよそ11人とされている。（米陸軍の「2007年報告」には自殺未遂が935件とある。）